

## 第4回摂津市総合計画審議会（第2部会）議事録

日時：平成21年12月18日(金)14:00～16:00

場所：摂津市立男女共同参画センター 1階 第1会議室

### 1. 議事

#### 事務局

あいさつ、資料確認

部会長 人と防災未来センター主任研究員の紅谷先生の紹介

出席担当課（産業振興課）の紹介

基本構想（案）の修正点の確認

#### 紅谷部会長

この部会では、今日は、6つのテーマについて、皆さまのお力を借りて、なごやかに検討を進めたい。また、もしも他の部会についての意見があれば、お願いしたい。

#### **■施策 消費者被害の未然・拡大防止に努めます（4-9-41）**

#### 紅谷部会長

（施策の基本方向、現状と課題、平成33年3月に実現したい姿、指標、施策の展開方向について確認。）

#### 平尾委員

消費生活相談ルームが目立たないのではないかと。他市では市民に目立つ所にある。新駅に合わせてつくる構想はないか。専任の相談員の体制はどうなっているのか。

#### 産業振興課

資格をもつ相談員3名が毎日2名体制で窓口と電話による相談ができるよう、ローテーションを組んでいる。

#### 紅谷部会長

指標の相談件数は、窓口と電話の合計か。

#### 産業振興課

その通りである。

#### 和泉委員

現状値の 646 件とは、1 年間の数字か。

#### 事務局

4 月から 3 月までの 1 年間の件数である。

#### 和泉委員

相談コーナーを目に付きやすい場所への設置を望む。訪問販売について、条例を制定すればクーリングオフがしやすくなると聞いたが、摂津市ではどうか。

#### 産業振興課

条例についてはない。玄関にステッカーを貼ったら拒絶の意思表示に、なる・ならないについて、消費者庁と市町村との連携が十分にとれていないのが現状である。消費者庁の統一的な動きは、しばらく様子を見る必要があると考えている。

#### 和泉委員

高齢化が進むなかで、高額商品でだまされるようなことがないように制度化を行うようなことを先駆けて研究して、消費者を守ってもらいたい。市民を法の下で守っていくことも一つの方向ではないか。

#### 紅谷部会長

条例や制度を作る話については、施策の展開から読み取ることができない。

#### 産業振興課

売る側の注意については、事業者の役割の中に、法令や府条例を守るべきことを書いている。

#### 和泉委員

事業者から市民を守る、市民側からみた施策が必要である。

#### 紅谷部会長

消費者保護の仕組みとして、条例などの制度化を柱にあげることが考えられるのでは。

#### 和泉委員

今後の課題として、行政の立場で、困っておられる方の相談以前に、消費者を守っていく方向を出してほしい。

#### 紅谷部会長

施策として、いま現在、実施されていることが入っていることが多いように見受けられる。

#### 事務局

未然に防ぐ視点は、確かに大事だ。

#### 平尾委員

ステッカーを貼って、ここに電話をしましょう、とあると心強く安心できる。

#### 和泉委員

クーリングオフ期間に解約できるということを知っていれば、被害を防げるケースが出てくる。

摂津市いきいきカレッジがあるように、自治会や集会所で、消費者が被害が合わないための講習会を開催したらどうか。

#### 産業振興課

摂津市いきいきカレッジの講座の1科目には、既にある。団体からの依頼に応じて、公民館などでは出前講座を行っている。

#### 和泉委員

公民館講座は、要望を受けてからでなく、システムとして年何回と開催したらどうか。また公民館へなかなか出向かれない方のために、身近な集会所でも開催したらどうか。

#### 紅谷部会長

子どものうちから、教育を受けることも重要である。

#### **■施策 農業特産物の保存・伝承と農地空間の活用を図ります (6-13-54)**

#### 紅谷部会長

(施策の基本方向、現状と課題、平成33年3月に実現したい姿、指標、施策の展開方向について確認。)

#### 平尾委員

摂津市の農地は17haと聞いたが、本当か。

## 産業振興課

大阪農林水産統計年報によると、市街化調整区域の鳥飼八町地域で 16ha、それに生産緑地が 17ha の合計 33ha が農地の保全面積で、それ以外に、宅地並み課税の 36ha があり、合わせて 69ha の農地がある。69ha の内訳は、田 57ha、畑 12ha である。

## 紅谷部会長

市民農園で生産緑地はどういう位置づけか。

## 産業振興課

生産緑地は 30 年間、自分で耕作していくことが法律で義務付けられている。平成 4 年に摂津市は生産緑地の事業採択を農家ごとに選択してもらい、生産緑地の事業決定を都市計画課で行った。生産緑地は市民農園として借りることが法律上できない。その他の一般農地は税金を宅地並みに払っており、農地転用は書類がそろえばすぐにでも宅地化が可能な農地で、農地の保全を図るため、この一般農地を市民農園として借りることになる。

## 和泉委員

市民農園の拡大とは、非常にきびしい理想論ではないか。農業従事者が激減するなかで、行政として農地や緑地を買い取っていくならともかく、善意だけに期待してやっていくことが可能だろうか。経済性からいったら、転用したいというのが現実ではないか。

## 産業振興課

5,831 m<sup>2</sup>というのは、5～6 年間同じ面積だったが、平成 21 年度には 1 箇所返してほしいというところがある一方、2 箇所提供したいという申し出がある。平成 22 年度には、さらに 2 箇所貸してもらおう話が進んでいる。

市民農園について、これまでは市で予算化して委託料を支払って農地を借りていたが、平成 21 年度からは委託料ではなく、非課税に組み替えた。今申しあげたように、市民農園はそれなりに増やせる動きがある。市に貸して、非課税になったほうが良いという判断。

## 樋下委員

その制度については知らない人が多いのではないか。

## 産業振興課

農協を通じて話をさせてもらっている。

## 和泉委員

そういう優遇策をやっているのであれば、市民農園は増えるかもしれない。

#### 産業振興課

倍増をめざしていきたい。

#### 井関委員

相続になると、手放さざるをえない場合も多い。

#### 紅谷部会長

市が仲介しているのか。

#### 産業振興課

市がいったん借りて、それを市民農園として公募している。直接のやりとりとすると権利関係がややこしいので、市が仲立ちする。

#### 平尾委員

鳥飼なすの収穫は増えているのか。

#### 産業振興課

生産農家として収益が見込めるか、実験的に 100 m<sup>2</sup>耕作した農家がある。来年度は、300 m<sup>2</sup>分に増えそうである。何人かのグループで栽培している。

#### 和泉委員

泉州の水なすが有名である。

#### 産業振興課

水と肥料が普通のなすの 2～3 倍かかる。泉州地域では、3 軒の農家が 600 m<sup>2</sup>鳥飼なすを作っている。7 月になると、産業振興課が一定の数を生なすで売っている。産業振興課が扱う分だけで、240 本、1 万 2～3 千個の成果物ができ上がる。出荷時には、生なすで 1 個 120～130 円。あとは漬け物用に使う。冷凍できるのが特徴である。

#### 紅谷部会長

鳥飼なすは、ブランドとしておもしろい。この施策については、内容について特に変更がないということによいだろうか。

**■施策 中小企業の経営基盤の強化を図ります (6-13-51)**

**■施策 ものづくりの活性化を支援します (6-13-52)**

**■施策 小売業・サービス業の活性化を支援します (6-13-53)**

**紅谷部会長**

(施策の基本方向、現状と課題、平成 33 年 3 月に実現したい姿、指標、施策の展開方向について確認。<最初は、51 についてのみ議論していたが、互いに関連しあうため、途中から 51、52、53 をまとめて議論した。>)

**和泉委員**

市外へ購買力が流れており、地域の商店街に落ちていない。後継者や大型店舗の問題がある。人口流入がある南千里丘開発で、商業の後押しができないか。

府内の 17 の商工会で、摂津市は市単独としては一番大きい。もらっている補助金の額では下から数えたほうが早い。市民企業として位置づけて、行政がハードな部分でのまちづくりをすすめるべきではないか。正雀ですら、シャッター街になっている。

**紅谷部会長**

まちづくりでは都市計画との連携が必要である。

**和泉委員**

駅から市役所へのメインストリートでは、歩道がない。歩けるゾーンが形成できる施策をしなければならない。用途地域の見直しを行いながら、市内で購入できるような商業施策が可能となる施策を行っていく。また高齢化社会に向けて、自動車に乗らなくてもよい、安全安心なまちづくりで、商店街をセーフティネットとすべき。大型店舗だけが買い物先ではない。行政主導でハードのゾーンづくりを。

**紅谷会長**

用途地域の見直しとは、どういうことか。

**和泉委員**

歩道のセットバックを行うためには、住居地域から商業地域にして、土地の価値をつける必要がある。土地の価値を上げて、土地所有者に道路環境を整備しようという動機付けが必要である。市街地整備の分科会には、安心して買い物できる環境の整備を考えてほしい。

**事務局**

15～17 ページ (良好な土地利用をすすめます、駅周辺の整備をすすめます) に関連して

いる。

#### 平尾委員

コミュニティバスも関係している。鳥飼から正雀へ出るのは不便なので、茨木市か吹田市へ行ってしまう。

#### 和泉委員

消費者に直結した店舗が少ない。

#### 紅谷部会長

施策の展開には、今ある制度については書いてあるが、後継者や事業承継の問題への対策の視点が抜けているのではないか。

#### 和泉委員

起業家戦略、起業家が集えるまちづくりへの援助がほしい。過疎の町の場合、人口流入に対して、住宅をあっせんするなどの優遇策がある。行政が、起業家に税の優遇や減免、家賃の補助などの強力な施策を行ったらどうか。

#### 紅谷部会長

後継者の育成や、新しい起業の話は、是非いれていただきたい。

#### 平尾委員

商工業活性化対策補助とは、どういうものか。

#### 産業振興課

例えば、平成19年には、商店街に対して一時保育ができる場所に家賃補助をした。その他に、夏祭りの実施に補助をするなどしている。

#### 紅谷部会長

新駅の商業への影響はどうか。

#### 事務局

駅前の1階部分がレストランになる程度。

#### 紅谷部会長

こういう場合、商売人を残すのがねらいか、商店街を守るのがねらいなのか、考える必

要がある。

#### 平尾委員

摂津市では、商店街はほとんどない。

#### 和泉委員

千里丘の商店街は、昔は活況を呈していた。

#### 紅谷部会長

ものづくりのところの事業所ネットについてだが、登録数よりも、データベースとして活用するほうが必要ではないか。

#### 和泉委員

事業所どうしのマッチングについて、銀行や大学がやっているが、行政がやってほしい。商工を問わず、起業家支援をやってほしい。特殊な技術をもつ製造業が多いので、情報発信をしてほしい。

#### 紅谷部会長

新しい起業家は、地価が下がったところに来る。事業所ネットについては、登録者数の増加ではなく、活用することをめざしてほしい。

#### 和泉委員

ポリテクセンターもあるし、まちの特色として起業しやすい環境づくりを入れてほしい。

#### 紅谷部会長

尼崎市では、メイドインアマガサキのような情報発信について、マスコミを巻き込んで行っている。10年先を見据えた目玉施策を考えてほしい。

#### 和泉委員

後継者問題についても何か考えてほしい。

#### 紅谷部会長

行政が関与して、後継者を公募することが考えられるのでは。職人を公募する事例はある。

「中小企業」「製造業」「商業・サービス業」という3本立ての括り方については、どうか。同じような内容が重なるが、わかりやすいか。

#### 和泉委員

くくりとしては、ちょっと違うのでは。

#### 産業振興課

前回の総合計画と比べると、商業と同じように、工業を打ち出してみた。確かに、両方にまたがる部分が、中小企業に出てしまっている。

#### 紅谷部会長

大企業に対する期待もあるのではないか。

#### 産業振興課

工業地域、準工業地域に広大な空地がなく、新たな大企業の誘致の可能性は低い。

#### 紅谷部会長

今ある大企業を逃がさないという視点が大事ではないか。逃さないようにチェックするのも大事である。

#### 和泉委員

大企業は税収面で影響が大きい。昼間人口流入にも貢献している。大企業への援助策も必要ではないか。

#### 紅谷部会長

大企業をまちづくりに巻き込むために、コミュニケーションをとっていく。

#### 和泉委員

近畿コカコーラが福岡へ本社を移転した。大手7社と言われるが、まちと共存ができるはず。

#### 紅谷部会長

企業とまちとの共存は、例えば、夏祭りなどがあり得る。

#### 和泉委員

企業にとっては、広報活動の一環である。

#### 紅谷部会長

大企業についても、キーワードとして何か入れてほしい。

#### 平尾委員

新幹線については、名所になれば、全国から好きな人が集まってくるのではないかと。

#### 和泉委員

行政としてどう取り組むかが課題だ。大企業なので地域貢献の視点はあるだろう。固定資産税が入ってくるくらいで、まちの産業としての位置づけができる企業になるかどうか。

#### 樋下委員

新幹線公園があるが。

#### 和泉委員

河川をもっと利用した産業イベントがあつてよい。環境、緑で市民が憩える空間づくり。

#### 紅谷部会長

他の都市ならば、観光を産業に入れるところだ。まちをきれいに、外部の人の目を気にするまちづくりをする。

#### 和泉委員

うるおい、いこいでとらえた河川整備をすれば、産業といこいが両立できる。

#### ■施策 就労を支援し、勤労者福祉の向上を支援します (6-14-55)

#### 紅谷部会長

(施策の基本方向、現状と課題、平成 33 年 3 月に実現したい姿、指標、施策の展開方向について確認。)

#### 紅谷部会長

10 年後の目標となる指標が、事業レベルになっているが。

#### 和泉委員

働く環境だけでなく、余暇を摂津市では楽しめるという切り口もあるのではないかと。勤労者が生き活きと、摂津市に住みたい、環境がよいから、あそこに勤めてみたいと思わせるような。東京なら六本木のような。

#### 紅谷部会長

福利厚生は、企業だけの問題ではない。

#### 和泉委員

ウインドウショッピングができるような都市的環境もそうだ。

#### 紅谷部会長

摂津市に住む人だけでなく、働く人も市民である。こういう市民に摂津市がどう関わっていくか。

#### 和泉委員

市民は、住んでいる人だけではない。企業市民として働いている人も市に貢献している。その人たちの施策への位置づけが弱いのではないか。昼間人口が多いのが摂津市の特色である。他の部会でも、企業市民としての認知をもっとしてほしい。

#### 事務局

企業市民が市に貢献している例として、1月から発足する機能別消防団がある。

#### 紅谷部会長

昼間市民について、今後、10年間を考えたら、年金受給がはじまる高齢者や女性の就労の問題もある。前にある施策の再掲でもよいので、施策を出してみたらどうか。

問題がおこってから相談だけでなく、事前の予防策も打ち出したい。

事業者の役割には、昼間市民として生き活きと過ごすということも入れたい。

#### 和泉委員

もっと勤労者がまちづくりに参加することも入れたらよいのではないか。

参加してもらうことで市に愛着を持つことができ、勤労者とまちが一体化できる。

#### 紅谷部会長

まち育てには、企業市民や昼間市民も関わっていくことが必要だと思う。

#### 和泉委員

祭りに事業者チームが参加することも、まちの文化を継承していく一つだ。

#### 紅谷部会長

以上で、本日の審議は終わる。次回は、年明け1月15日にこの場所で予定をしている。

以上